

令和2年度 学校評価実施報告書

学校名（嵯峨中学校）

教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、社会人基礎力の育成を目指す

(社会人基礎力=前に踏み出す力、考え方力、チームで働く力、地域貢献)

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休校、分散や時差登校、そして感染予防のために消毒・マスク着用・3密を避ける（ソーシャルディスタンスを保つ）などの新たな行動様式に伴う学校生活が続く中で、これまで当たり前だったことができなくなり取組や事業そのものを見直さなければならず教職員・生徒たちの気持ちに負荷をかけることとなり、これまで大事にしてきた「一生懸命にやること」「限界をつくらずやりきる」「あきらめずに粘り強く」などを教育活動の実践で作りだす場面が少なくなってしまった。 ・学校教育目標の具現化に向けて、教職員が一丸となって教育活動に当たってくれたが、自己評価アンケート結果（後期）から「困難なことに妥協せず、高い目標を設定して挑戦させていくよう指導している」で92.0%が肯定的な回答であったが、自信を持って「よく当てはまる」と回答したのが35.3%とやや後退しているのが気にかかる。 ・本校の教育活動の核となっている「嵯峨中パレード」「嵐山フィールドワーク」などの地域との協働を通して「自己有用感」の向上と地域への愛情を育むことについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、「嵐山フィールドワーク」「大堰川清掃」「嵐山植林育樹の日」「小倉山植樹活動」は中止となった。「嵯峨中パレード」では地域でのパレードは中止したが、校内での発表会を実施し、SNSを通じて発信することを考え、その想いは変わらず継続し、次年度に開催できることを願いつつ、引き継ぐことができた。 ・教職員自己評価では、いじめ防止基本方針を理解し、組織的な対応に努めているとほとんどの教職員が回答しているが、いじめ案件（いじめにつながる案件も含めて）は起こっており、引き続き指導が必要である。生徒の人権意識を高め、実態に合った教育実践を行う必要がある。 ・「エスノート（振り返り手帳）を効果的に活用させるように指導している。」の質問に対して、否定的な回答が35.3%もあり、その取組の目的と効果を今一度、共通理解を図る研修を行い、生徒や保護者から効果やメリットが見いだせるような取組にしていきたい。 ・学力向上に関しては、研究指定の取組や授業改善により一定の効果は見られるものの、学習確認プログラムの結果を見ると、伸び悩んでいる学年もあるのも事実である。生徒たちにしっかりと学力をつけさせることは、学校としての責務であり、至上命題でもある。3年生の進路保障も含めて、1・2年生から学習に向かう姿勢からしっかりと見直し、やるべきことはしっかりとやりきらせるような指導を行っていきたい。またできない生徒への取組や手立ても行うことも忘れずに。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に対する支援は、どんな状況にあっても協力すると心強いサポートをいただいた。 ・新型コロナウイルス感染症対策のもとでの学校運営にご理解をいただいた。また、様々な制限
------	--

係者評価	<p>はあるものの地域の子どもたちの居場所となし、安心・安全に学校生活が過ごせるように努力してください。</p> <p>・エスノート（振り返り手帳）の取組が、生徒・保護者・教職員ともに評価が低いので、今一度取組の主旨・目的を確認し、取組を抜本的に改善することが必要である。</p>
------	--

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年12月1日（変更）	学校運営協議会
最終評価	令和3年2月17日（変更）	学校運営協議会

（1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成

－各教科における「つながり」を意識した授業改善の工夫－

具体的な取組

1. 週1回の教科会を授業時間内に組み込み、教科会の充実を図り、生徒達の質の高い学びを引き出す様々な工夫を交流する。また、単元配列表の見直しを進めていく。
2. 学年会・教科会で学力向上に向けた議論ができるように、各教科および学習研究部で全国学力学習状況調査などの諸調査や定期テストなどのデータを分析し、課題やその改善方法等を検討するための機会を教科会や学年会などで定期的に設ける。
3. 各教科・領域において、新学習指導要領に沿った指導ができるように教材・教具の充実をはかる。
4. A4版ホワイトボードによる思考の見える化を全教科で進める。
5. 校内研究授業を年2回実施し（6月・12月），授業交流を通して指導力向上を目指し、授業改善を図っていく。研究協議では、子どもひとり一人を見取る右京支部授業研究会のやり方を実施する。6月は校下小学校へ分散して訪問。12月は国研の研究発表会を通じて、小中連携もはかる。
6. 毎月はじめの一週間を『ひょっこり参観週間』と名付けて、他の教員の授業を見に行く取り組みを行う。年間を通じて授業研究の視点を全教職員に持っていただく。
7. 生活のリズムを整え、落ち着いて1日のスタートを切るために、一年を通して7分間の朝読書に取り組ませる。
8. 授業に生かされる家庭学習の充実を図るため、“適切な質と量の宿題”の継続的な取り組みを行う。
9. 「振り返り力」向上をねらいとしたエスノート（フォーサイト手帳）の活用を、年間を通じて行う。
10. 定期テスト前や長期休業期間を活用して、補充学習会を実施する。
11. 週末の課題提示により、個々の生徒の興味・関心に合わせた多様な取り組みを展開していく。
12. 通常の学級に在籍する特別な支援を要する生徒について、「個別の指導計画」「個の課題に応じた指導計画」を作成し、自律して社会参加できるための支援について保護者と共に計画し、個に応じた支援を意識し、実施していく。
13. 特別支援教育の共通理解を深め、指導に役立てるための研修会や事例研修を行う。
14. ユニバーサルデザインの観点から、学校全体の環境整備を進める。

15. 若手教員の育成・支援や指導力の向上、また若手教員と中堅教員との繋がりを深めて、互いに切磋琢磨できるようなOJTを充実させる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・全国学力学習状況調査の結果（今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休校により中止）
- ・学習確認プログラムの結果
- ・7月教職員自己評価（言語活動の充実、授業形態の工夫、特別支援教育への知識と実践、エスノート活用）
- ・7月生徒アンケート（聞くことの姿勢、発表・書くことへの意欲・関心、家庭学習の習慣、エスノート活用）
- ・7月保護者アンケート（授業の工夫、家庭学習の習慣、エスノート活用）

中間評価

各種指標結果

○全国学力・学習状況調査

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う一斉休校（臨時休校）措置のため中止

○ジョイントプログラム・学習確認プログラム（全市平均を100とする標準偏差）

- ・1年：Joint自宅実施（データなし）
- ・2年：Joint +6.7, Basic1st +8.3, Basic2nd +9.5, Pre1st +7.7
- ・3年：Joint +7.1, Basic1st +5.6, Basic2nd +2.2, Pre1st +4.2, Pre2nd +4.4, Pre3rd +2.4, 1stStage +3.6, 2ndStage +3.3

○教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・創意工夫のある授業、学びに向かう姿勢を高める授業を行っている…100%
- ・アウトプットを意識した授業を行っている…100%
- ・聞く姿勢を意識し、指導をしている…100%
- ・エスノートの効果的に活用させる指導を行っている…76.2%

○生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・聞くことの姿勢（教員や友人等の話を最後まで聞くことができる）…94.5%
- ・授業はよくわかる…87.5%
- ・自ら進んで学習に取り組んでいる…72.9%
- ・自主的に家庭学習をしている…66.8%
- ・エスノートを活用し、計画的な家庭生活を過ごしている。…44.0%

○保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・わかりやすい授業が行われている…89.3%
- ・積極的に学習に取り組んでいる…78.8%
- ・家庭学習にしっかり取り組んでいる…62.3%
- ・エスノートを活用し、計画的な家庭生活を過ごしている…52.8%

自己評価

分析（成果と課題）

○全国学力・学習状況調査

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う一斉休校（臨時休校）措置のため中止

○ジョイントプログラム・学習確認プログラム

1年生のジョイントプログラムは、小6の3月～中1の5月までの一斉休校（臨時休校）措

置のため、自宅での学習で行ったため、指標はありません。

2年生の状況は、授業および予習・復習シートの活用（自主学習・提出）や7限の補充学習（週1回程度）の成果が出ていると考えられ、順調に学力向上させている。

3年生の状況も、2年生同様に授業および予習・復習シートの活用（自主学習・提出）や7限の補充学習（週1回程度）の成果が出ていると考えられる。

どの学年も定期テスト同様に、中位層上位と中位層下位の2つの山がある教科が多く、学習にしっかりと取り組んで力をつけている層とやや学習に遅れがちでできなくなってきたいる層があるように思われる。

○授業

生徒および保護者のアンケートによると、授業でのやわかりやすさでは、約9割と高い結果が出ているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う一斉休校（臨時休校）措置のために、6月からの授業再開から「教わる」・「学べる」ことの大切さを、生徒・保護者・教員ともに感じることができた。学習内容を早く進めていくため、アンケートを実施した7月には学習内容を深化させたり、グループワーク等での協議は出来なかった。9月以降は一人一枚小さいエスボード（ホワイトボードA4サイズ）を購入して、自分の考えを表したり、発表する手立てを考えた。

エスノート（振り返り手帳）の活用の成果は、徐々に表れてはいるが、生徒の実感としては44.0%とやや低調である。年度当初の指導もしっかりできなかつたことも要因と考えられるが、自分の生活の中で、なくてはならない1冊となるよう、引き続き、有効な活用に向けて指導を継続していきたい。

○特別支援教育への知識と実践

総合育成教育主任のリードで、研修会やケース会議を毎月行っている。また、「個別の指導計画」の作成を徹底し、保護者への周知も行っている。そのため、教職員の意識も高いと考えられる。

○家庭学習

家庭学習は、生徒は66.8%，保護者は62.3%となっているが、内容では、宿題や課題等での与えられた学習をする時間が多いうに考えられる。個人差も大きく、宿題を忘れる生徒は少ないが、特に学習が遅れがちな生徒に対する指導する必要がある。

○エスノート（振り返り向上手帳）の利用

全校生徒にエスノートを導入して以来、日々の生活の中で「時間を気にする」ようになり、「計画をたてること意識する」ようになっている。ただ、活用については、生徒は44.0%であり、意識の低い生徒も多い。昨年に比べて約10%下回っている。これは、コロナ禍で年度当初の指導もできていないことと、ずっと自宅で過ごす単調な生活に対して、活用がしにくかったのではないかと考えられる。秋に行うエスノート大賞などの取り組みをきっかけに、その有効性を浸透させるとともに、さらなる有効活用が今後の伸びにつながると考えられる。

○ユニバーサルデザインの観点からの環境整備

昨年度から京都嵯峨学園としての取組の一環として、教室内のホワイトボード、時計、掲示物、黒板、カーテン、廊下の壁の色など統一した規格に設定を行った。特に特別支援教育と中1ギャップ解消には一定の効果がみられる。

分析を踏まえた取組の改善

新学習指導要領の趣旨の実現を図るための研修、国立教育政策研究所の指定研究を行い、指導

力向上に努めてきた。どの教科においてもペアワークやグループワークなど、話し合い活動を中心としたアクティブラーニング型授業（主体的・対話的で深い学び型授業）を取り入れた授業展開を普段から積極的に取り入れている。引き続き、今後も各教科での「つながり」を意識しながら授業改善を進めていく。

上記のような発展的な学習の中にも「基礎基本の定着」を視点において、授業の構成に軽重やメリハリをつけてよりわかりやすい授業を目指していく。

エスノートを積極的に活用している生徒は「時間・計画・目標の意識」、「学力向上・達成感」等が高い結果となっている。秋に行うエスノート表彰等を通して、優秀者のノートを掲示も行い、良いところを取り入れられるように利用を推奨していく。合わせて普段から活用について学級活動や教科授業の中で、折にふれて指導を積み重ねていく。

言語活動の充実を図るために、普段から読書時間の確保を行うために、図書委員会の活動や図書館教育を活性化させ、読書への関心を高め、読書や図書館利用を呼びかける。（学校司書との連携）

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学習確認プログラムの結果
- ・12月教職員自己評価（（言語活動の充実、授業形態の工夫、特別支援教育への知識と実践））
- ・12月生徒自己評価（聞くことの姿勢、発表・書くことへの意欲・関心、家庭学習の習慣、エスノート活用）
- ・12月保護者アンケート（授業の工夫、家庭学習の習慣）

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、3～5月の一斉休校（臨時休校）措置に伴い、これまで当たり前のように行えたことが出来なくなっているように感じられる。その中で学校や教職員の工夫によって、何とか教育活動を実践していることに敬意のお言葉を頂いた。

今後、この影響がどのような形で、生徒たちや各家庭に出てくるのかが心配である。

今年度は9月開催の学校運営協議会を12月に延期したので、感染症対策で学校行事を学年別や「できることを、できるかたち」で内容等を工夫している様子を見ていただき、今後も学校・家庭・地域が一体となって、学校を支えていくとご理解・ご協力いただいた。

最終評価

自己評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・学習確認プログラムの結果
- ・12月教職員自己評価（（言語活動の充実、授業形態の工夫、特別支援教育への知識と実践））
- ・12月生徒自己評価（聞くことの姿勢、発表・書くことへの意欲・関心、家庭学習の習慣、エスノート活用）
- ・12月保護者アンケート（授業の工夫、家庭学習の習慣）

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

○学習確認プログラム（全市平均を100とする標準偏差）

- ・1年：Basic1st + 0.8, Basic2nd - 3.1
- ・2年：Pre2nd + 10.8, Pre3rd + 11.3
- ・3年：中間評価から実施なし

○教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・創意工夫のある授業、学びに向かう姿勢を高める授業を行っている… 97.1%

- ・アウトプットを意識した授業を行っている… 9 1. 2 %
- ・聞く姿勢を意識し、指導をしている… 1 0 0 %
- ・エスノートの効果的に活用させる指導を行っている… 6 4. 7 %

○生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・聞くことの姿勢（教員や友人等の話を最後まで聞くことができる）… 9 6. 4 %
- ・授業はよくわかる… 8 2. 4 %
- ・自ら進んで学習に取り組んでいる… 8 2. 6 %
- ・自主的に家庭学習をしている… 5 9. 9 %
- ・エスノートを活用し、計画的な家庭生活を過ごしている。… 4 0. 1 %

○保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・わかりやすい授業が行われている… 8 6. 8 %
- ・積極的に学習に取り組んでいる… 6 7. 8 %
- ・家庭学習にしっかり取り組んでいる… 5 8. 9 %
- ・エスノートを活用し、計画的な家庭生活を過ごしている… 5 2. 0 %

○学習活動

- ・教職員自己評価では、授業での創意工夫ある授業については 9 7. 1 %、集中力や「聞く」ことへの姿勢については 1 0 0 %である。しかし、実際の学力については予想を下回り、結果が伴わない教科もみられることが課題である。授業中の様子や雰囲気は全体的には良好であるが、教科によっては集中力を欠くなど、教師の指導力向上が課題である。
- ・生徒自己評価では、自主的な家庭学習が 5 9. 1 %とやや後退している。コロナ禍の中で様々な制約を受ける中、学校での学習および家庭学習の定着が図れていないことが読み取れる。また、計画を立てて学習をしているという質問には、4 0. 1 %の生徒しか肯定的な回答しておらず、エスノートを活用し、学習の仕方や方法、家庭での時間の使い方を考えさせるなどの取組に至っていない。
- ・本時の目標については 1 0 0 %、アウトプットを意識した授業では 9 1. 2 %である。日々の教材研究も含め、メリハリのある授業構成やグループ活動の意図が、生徒にも保護者にも伝わる工夫が必要である。国立教育政策研究所の教育課程研究指定校（数学）も最終年度を迎える研究は継続して進めたものの研究発表はできず、取組も他教科への広がりも進まなかつた。

○特別支援教育への知識と実践

- ・総合育成教育主任が中心となり、研修会やケース会議を毎月行っている。また、「個別の指導計画」の作成を徹底し、保護者への周知も行っている。ケース会議も定期的に開き、情報を共有しながら個々の生徒に対し組織的に対応できている。

○エスノート（振り返り手帳）の利用

- ・各学年でエスノートの作成について優秀な生徒を表彰し掲示したが、例年に比べるとその内容に物足りなさを感じた。その傾向が顕著にでているのか、エスノートの活用では、生徒自己評価は 4 0. 1 %、保護者評価は 5 2. 0 %に対し、教職員自己評価 6 4. 7 %と大きく乖離している。教職員が思っているほど生徒は活用ができていないことが課題である。

分析を踏まえた取組の改善

○学習確認プログラムの結果

- ・3年生を含めて、分析を行うと学年ごとの課題が明確となった。学力向上委員会や研修会で

	<p>共有しているものの、学年によって温度差が顕著に出ている。2年生は1年生時より事前指導から取組を全クラスで行うことで功を奏している。それ以外の学年は教科での取組となっており事前指導としてやっているものの基礎学力定着を図りきれていない。次年度は学習指導部・学力向上委員会より強力な発信をしてもらい、学年・教科の両面からしっかりととした学力向上に向けた取組を実施したい。</p> <p>○学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立教育政策研究所の教育課程研究指定校（数学）で培った取組を、数学だけでなく他教科でも活かせるようにしたい。 ・「主体的・対話的で深い学び」になるように班活動やペアワークを有効的に活用して授業形態を工夫する必要がある。また発表の場を多く設定し、生徒の苦手知識を減らす。 ・互いに授業を参観しあう機会を一層推進し、特に若年教員の指導力向上につなげていく。 <p>○特別支援教育への知識と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な生徒も各学年に在籍しているため、今後も引き続き研修会、ケース会議を実施していく。 <p>○エスノート（振り返り手帳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の結果を受けて、次年度の年度当初に新転任者を含めて教職員の研修を行い、全学年ともに共通理解を図った上で取組を行っていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ意欲を高める丁寧な指導をしていただいている」「教育の新しい流れを積極的に取り入れている」「特別支援教育において適切な指導ができている」との評価をいただき、学力向上に向けて、さらに取組を進められることを期待する。 ・エスノート（振り返り手帳）の取組が、生徒・保護者・教職員ともに評価が低いので、今一度取組の主旨・目的を確認し、取組を抜本的に改善することが必要である。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権を尊重し、思いやりの心に富む生徒の育成 ○正義感や公正さを重んじる心、規範意識を持つ生徒の育成 ○主体的に考え方行動できる生徒の育成 ○地域を愛し、地域の環境や地域の伝統を大切にする心を持ち、地域に貢献できる生徒の育成 ○よりよい社会の実現を目指せる生徒の育成 ○道徳的価値を自分との関わりも含めて理解・内省し、多角的に考え、判断する能力の育成 ○考え、議論する道徳のための授業の実施 <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間をはじめ、あらゆる教育活動の場面において道徳教育を進める。 ・生徒の実態を考慮したうえで目的を設定し、4つの視点による22項目にあった適切な教材を収集・検討し、年間計画を作成する。 ・クロスカリキュラムの中で道徳と他教科とのつながりも意識して授業を行う。 ・道徳的実践力や価値の自覚の深まりについて振り返りが行えるような自己評価を実施する。 ・「考え、議論する」ことができる内容を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを得られる授業づくりを実践する。
--	---

- ・公開授業や休日参観での道徳の時間の充実を図ることを通して、保護者への発信を促していく。
- ・研修会や研究授業を行い、授業改善について積極的に取り組む。
- ・伝統文化体験を積極的に取り入れ、京都が育んできた伝統や文化を受け継ぐ生徒の育成を目指す。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・Q-U調査
- ・道徳の生徒自己評価
- ・7月教職員自己評価（保護者対応、生徒とのつながり、地域とのつながり）
- ・7月生徒アンケート（公共の精神、地域行事への参加、規範意識、自己有用感）
- ・7月保護者アンケート（生徒の規範意識）

中間評価

各種指標結果

○Q-U調査（今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、前期実施できなかつたので、後期との比較・変容を分析できないことから実施しないことにしました。）

○教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・「一生懸命はカッコいい」を目指す生徒を育成する教育実践…100%
- ・場に応じたあいさつの習慣を身につけさせる教育実践…100%
- ・間違った言動や態度に対してすばやい生徒指導の実践…95.2%
- ・積極的に学校の様子を知らせている（学級通信・学年だより・HP）…95.0%
- ・地域と共にある学校づくりを意識して教育活動を実践…85.7%
- ・妥協せず、高い目標を設定して挑戦させられるような指導…85.7%

○生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・学校の規則や社会のルールを守っている…96.4%
- ・他者を思いやった言動が出来ている…87.4%
- ・自分から気持ちの良いあいさつをしている…84.9%
- ・将来の夢や目標を持っている…76.0%
- ・難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している…70.7%

○保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・学校の規則や社会のルールを守っている…95.1%
- ・周りの人と協力して課題を解決していくことができている…86.1%
- ・教育活動についての情報提供ができている…82.1%
- ・失敗を恐れず挑戦している…62.6%
- ・将来の夢や目標が持てる活動ができている…71.6%

自己評価

分析（成果と課題）

○学校生活について

保護者アンケート結果は概ね高い数値ではあるが、「失敗を恐れず挑戦」「夢や目標が持てる活動」については6～7割程度とやや低く、目先の進路だけでなく、将来を見通した進路など、生き方に対する指導も今後必要であると考える。

○地域とのつながりについて

本校が、地域とともにある学校を目指し、地域との連携をはじめ、地域行事にも積極的に関わることで生徒の意識も高まっていると考える。また、「働き方改革」や「部活動ガイドライン」

遵守に伴い、部活動の時間も減り、地域の取り組みや家庭での時間が増えてきたことも影響していると考える。ただ、例年の結果と比べて、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域行事はほとんど中止しており、2・3年生はこれまでのつながりからアンケート結果は大きく変化していないが、1年生は関わりが薄かったことで数値が下がっている。

○豊かな心の育成について

自己有用感・自尊感情を高める教育活動の実践や楽しく過ごさせるための学級経営に取り組み、間違った言動や行動・態度を見過ごさない生徒指導を行っていくことで、生徒たちが安心・安全に過ごせる学校になるように取り組んでいる。保護者の賛同や理解も得られていることがわかる。

分析を踏まえた取組の改善

保護者アンケートから「学校の規則や社会のルールを守っている」や「教育活動についての情報提供」の数値は高いが、個々の生徒の動向を、日々丁寧に見とることが必要である。

また、不登校や不登校傾向にある生徒も多くいるので、焦点を当てて、対策を講じる必要がある。

保護者対応については、丁寧かつ毅然な対応が必要である。特にトラブルになる場合は、いい加減な返事や対応がある場合が多い。特に電話による連絡ではなかなか信頼関係を構築できないので、家庭訪問の頻度を増やし、一層連携した取り組みが必要である。また、家庭連絡の内容も生徒指導があった時だけではなく、褒める内容も伝えるなどの工夫を考えることが必要である。しかしながら、この新型コロナウイルス感染拡大に伴い、家庭訪問にも気を遣うところもある。

地域行事への参加については、顧問が部活動とのバランスを考え、参加することの意義を認識させ、生徒に呼びかけていく。また教職員も地域とのつながりを意識できるチャンスでもある。ただ、教職員の引率・参加等については、働き方改革とともに配慮していく必要がある。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・道徳の生徒自己評価
- ・12月教職員自己評価（保護者対応、生徒とのつながり、地域とのつながり）
- ・12月生徒アンケート（公共の精神、地域行事への参加、規範意識、自己有用感）
- ・12月保護者アンケート（生徒の規範意識、学校とのつながり、子どもの自己有用感）

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

毎年、吹奏楽部や伝統文化部、その他多くの生徒に対し、地域の方々から、さまざまな行事に多数、参加してくれている。同時に、アンケート結果からも生徒の地域に対する意識も年々高まり、将来地域を担う貴重な人材として期待されている。

ただし今年度は、例年と異なり新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ほとんどの地域行事を中止にせざるえない状況にあり、中学生たちが活躍できる場を提供できていないことに苦々しい思いである。早く地域も学校も通常の行事が行えるようになることを願うばかりである。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果
<ul style="list-style-type: none">・道徳の生徒自己評価・12月教職員自己評価（保護者対応、生徒とのつながり、地域とのつながり）・12月生徒アンケート（公共の精神、地域行事への参加、規範意識、自己有用感）・12月保護者アンケート（生徒の規範意識、学校とのつながり、子どもの自己有用感）

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- 教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）
- ・「一生懸命はカッコいい」を目指す生徒を育成する教育実践… 88. 3%
 - ・場に応じたあいさつの習慣を身につけさせる教育実践… 97. 1%
 - ・間違った言動や態度に対してすばやい生徒指導の実践… 97. 1%
 - ・積極的に学校の様子を知らせている（学級通信・学年だより・HP）… 73. 5%
 - ・地域と共にある学校づくりを意識して教育活動を実践… 85. 3%
 - ・妥協せず、高い目標を設定して挑戦させられるような指導… 91. 2%

○生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・学校の規則や社会のルールを守っている… 96. 8%
- ・他者を思いやった言動が出来ている… 90. 4%
- ・自分から気持ちの良いあいさつをしている… 85. 3%
- ・将来の夢や目標を持っている… 72. 7%
- ・難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している… 73. 6%

○保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・学校の規則や社会のルールを守っている… 93. 9%
- ・周りの人と協力して課題を解決していくことができている… 81. 4%
- ・教育活動についての情報提供ができている… 89. 6%
- ・失敗を恐れず挑戦している… 62. 1%
- ・将来の夢や目標が持てる活動ができている… 68. 5%○生徒アンケートから
- ・学校の規則や社会のルールを守るといった規範意識は 96. 8% ととても高い数値を保っている。落ち着いた学校生活を送れていることの裏返しとも言える。また他者を思いやった言動や自分から気持ちの良いあいさつの励行と、本校が大切にしてきた仲間づくりや縦割り（学校行事・部活動）での活動がしっかりと根付いている証拠といえる。
- ・将来の夢や目標を持つや難しいことでも失敗を恐れないで挑戦できるについては、例年と異なり数値が伸び悩んだのは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、生き方探究チャレンジ体験、高校出前授業、嵯峨中パレードをはじめとする嵯峨中三大行事の規模縮小等など、やはり学校行事で培う力は大きいと感じられたので、次年度は感染予防の取組は継続するが、「今できることをできる形で」と頑張った今年度の3年生と同じ気持ちで継続して取り組んでいきたい。

○教職員アンケートから

- ・教職員が常に現状に満足せずに、生徒たちの力を最大限引き出せるように教育実践を行う本校の様々な取組の実践により、自己評価でもとても高い数値となっている。次年度も継続して生徒たちが自己有用感・自尊感情を高められるような教育活動の実践や学年・学級経営、見逃しのない生徒指導など継続していきたい。

○保護者アンケートから

- ・おおむね学校での教育実践については肯定的に受け止めていただいている数値が並んでいるので、継続してしっかりと取り組んでいきたい。
- ・特に地域とともに作り上げる学校行事（嵯峨中パレード等）では、PTAや地域各団体の協力を得ながら、学校教育活動を展開することができた。今後も、地域と共にある学校づくりを目指し、保護者や地域の願いを大切にしながら取り組んでいく。
- ・今年度は残念ながら中止となったが、嵯峨祭や斎宮行列をはじめ地域の行事や取り組みにも積

	<p>極的に生徒の参加を促し、やがては地域の担い手に育てるよう、長期的な見通しをもって取り組んでいきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修では、今多くなっている不登校生徒についての研修をより深めていきたい。不登校対策委員会で議題に上がっているものの次なる策を講じるまでの議論をさらに進めていきたい。 ・地域行事への参加については、顧問が部活動とのバランスを考え、参加することの意義を認識させ、生徒に呼びかけていきたい。ただ、教職員の引率等に関しては、働き方改革も含め検討していく。 ・自己有用感・意欲を高める教育活動の実践や楽しく過ごさせるための学級経営、見過ごさない生徒指導による安心・安全な学校生活にするために熱心に取り組んでいるところではあるが、家庭との連携を密にして、個々の生徒・保護者の状況を的確に把握し細やかに対応していく。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の参加等でも、様々な生徒の活躍の場として、生徒に関しても個々の良いところを認め引き継ぎ力を入れてほしい。 ・「心の通った生徒指導」「家庭とのきめ細かい連携」「生徒や教職員と気軽に相談できる雰囲気づくり」「生徒指導の素早い対応」などで良い評価をいただいた。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の健康と生活実態を把握し、健康な生活が送れる習慣を育てる。 ○生徒一人一人が自らの心身の健康や安全について理解し、生涯を通して健康や安全の保持・増進しようとする態度や意欲を培う。 <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標である「社会人基礎力（前に踏み出す力・考え方力・チームで働く力・地域貢献）」の育成を目標に、教科、道徳、総合の時間、学校行事において、また地域とのつながりも大切にし、豊かな心と健やかな体の育成に努める。 ・生活習慣の乱れ、ストレスや不安感の高まっている現状を踏まえ、こころの健康を含め自らの健康を維持し、改善するが出来るように日々の観察と教育相談等の機会を使って指導、助言する。 ・性教育学活を行う。（生命誕生や男女交際、性感染症に関する知識を深めさせる。） ・防煙教室、薬物乱用防止教育を行う。（その有害性・危険性について認識を深めさせ、好奇心や人からの勧め等に関して、適切に対応できる態度を養わせる。） ・保健委員会活動の「換気点検」「生活習慣見直し習慣」の実施や朝学活での「健康観察」で生徒の健康把握に努める。 ・生徒及び保護者が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、積極的に食教育に取り組む。（生徒・保護者対象の「食教育」に関する講演会の開催、食通信「Fooding ニュース」の発行、昼食時間の延長、昼食時の食育放送） <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛宕登山における朝練習参加状況 ・7月教職員自己評価（あいさつ・思いやり・食育・休養） ・7月生徒アンケート（基本的生活習慣、あいさつ、思いやり、食事・休養） ・7月保護者アンケート（あいさつ、思いやり、食事・休養）
--	---

- ・保健委員会・生活委員会のアンケート（起床および就寝時間）
- ・給食の申込数調査

中間評価

各種指標結果

○愛宕登山における朝練習参加状況

これまで長く続けてきた愛宕登山であったが、登山による事故や体調不良の対応など課題もあり、今年度の新型コロナウイルス感染拡大もあり、行事を見直して廃止したのでデータなし。

○教職員アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・場に応じた気持ちの習慣を身につけている… 100%
- ・認めあい、励まし合い、支え合うことができるような働きかけをする… 100%
- ・食育や休養について指導している… 85. 7%

○生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・自分から気持ちの良いあいさつをしている… 84. 9%
- ・他者を思いやった言動ができる… 87. 4%
- ・食事や休養など自分の体のことに気をつけて日常生活を送っている… 76. 8%

○保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）

- ・気持ちのよいあいさつや返事ができている… 82. 4%
- ・他者を大切にし、仲良く過ごせている… 95. 8%
- ・食事や休養など自分の体のことに気を付けて日常生活を送っている… 79. 0%

○保健委員会・生活委員会のアンケート

- ・起床時間（7時まで）
 - 1年… 70. 3%， 2年… 59. 2%， 3年… 32. 8%
- ・就寝時間（11時まで）
 - 1年… 43. 4%， 2年… 32. 5%， 3年… 30. 8%

○給食申込率… 4割以上の生徒が申し込んでいる。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・保健委員会と生活委員会で、生活習慣（特に起床時間、就寝時間）のアンケートから夜遅くまで起きている生徒、朝遅くまで寝ている生徒が、学年進行とともに多くなっている。
- ・食教育主任が食育を進めており、「Food NEWS」の発行や昼食時間の「食に関する放送」を継続して行っていることで、生徒たちに食事と休養の重要性を認識させている。
- ・本校の給食申込率は約4割以上と、とても高く、中学生が摂取すべきエネルギーや必要な栄養素をしっかりと摂ることが出来ている生徒が多い。
- ・学校生活を送る中で、あいさつや他者を思いやることができるので、お互いにストレスを抱くことなく学校生活を送ることができている。
- ・健康に関わる部分は、新型コロナウイルス感染症対策で行っている「マスクの着用」「うがい・手洗いの励行」「常時換気」等を、常に指導・実施している。また健康観察・検温も毎日の実践することで、常に自分の健康状態を把握している。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生活習慣の改善に向けた取組（早寝・早起き・朝ごはんの実践）を生徒会の委員会活動を中心に取り組んでいきたい。食育に係る部分は継続し、さらに生徒たちの実践につながるようにしていきたい。安心して過ごせる学校を維持するために、教職員で学級・学年・全校生徒の日々

	の様子をしっかりと見取り、わずかな兆候やサインなどの見落としがないようにしていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・12月教職員自己評価（あいさつ・思いやり・食育・休養） ・12月生徒アンケート（基本的生活習慣、あいさつ、思いやり、食事・休養） ・12月保護者アンケート（あいさつ、思いやり、食事・休養） ・保健委員会・生活委員会のアンケート（朝食喫食率・起床および就寝時間など） ・給食の申込数調査
学校 関係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃からしっかりとあいさつができる嵯峨中生を見ていて素晴らしいとのご意見をいただいた。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、出来る限りの対策を講じ、安心・安全な学校生活が送れるよう教職員に支えていただきたいとのご意見をいただいた。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果
	○教職員アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計） <ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた気持ちの習慣を身につけている…97.1% ・認めあい、励まし合い、支え合うことができるような働きかけをする…91.2% ・食育や休養について指導している…97.1%
	○生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計） <ul style="list-style-type: none"> ・自分から気持ちの良いあいさつをしている…85.3% ・他者を思いやった言動ができている…90.4% ・食事や休養など自分の体のことに気をつけて日常生活を送っている…80.8%
	○保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計） <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよいあいさつや返事ができている…81.1% ・他者を大切にし、仲良く過ごせている…95.1% ・食事や休養など自分の体のことに気を付けて日常生活を送っている…77.3%
	○保健委員会・生活委員会のアンケート <ul style="list-style-type: none"> ・実施できなかった。
	○給食の申込数調査 <ul style="list-style-type: none"> ・平均40%以上の給食喫食率を推移。クラスによっては50%を超える給食喫食率があった。

自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会を中心に、朝食の重要性と内容の見直しを呼びかける取組を行う。 ・食教育主任による「食 ing ニュース」の発行や昼食時間に行っている食に関する啓発放送を継続して行う。 ・「早寝・早起き・朝ご飯に朝読書」の定着を目指し、規則正しい生活について再認識させる。 ・新型コロナウイルス感染症対策のために、体育館に集めて集会形式の様々な取組（非行防止教室・薬物乱用防止教室・自転車安全学習など）は、なかなか実施できなかったので、学級担任や保健体育科の授業の中で実施した。
	食育と休養 <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の申し込みは、約4割と高く、食教育主任を中心に昼食時間の放送や「食 ing ニュース」などの発行により、生徒の意識がかなり向上してきている。喫食率についても、主食は8

	<p>割強、献立にもよるが副菜についても約8割であった。引き続き、継続をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全市的に喫食率は下がったが、本校では今年度喫食者の割合は上がっており、今年度から新たに給食を食べる生徒も多くいる。継続することで食べ慣れて、成長期に必要な栄養を取ることができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ごはんに朝読書」における実態把握（委員会活動における調査） ・昼食の委員会放送による食に関する啓発放送の継続実施 ・給食の喫食調査 ・部活動における食育指導 ・全学年での全校給食の実施などの計画
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や社会体育で表彰を受ける生徒もあり、大会そのものが中止や代替大会での記録などになってしまったが、その中の活躍を評価していただき、食教育の大切さを改めて再認識した。

(4) 学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <p>京都嵯峨学園としての教育活動の充実を目指す。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新学習指導要領に対応した教育課程の編成と実施（授業改善とカリキュラムマネジメント） <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における「つながり」を意識した授業の工夫・改善 ・家庭での自学自習の習慣化（振り返りの重視とエスノートの活用） ・困りのある生徒の実態に応じた合理的配慮の実施（教育環境整備の重視） ・「特別の教科 道徳」の実践（重点内容項目… B 礼儀, C 伝統と文化） ・アウトプットの重視（自身の考えを多様な方法で表現させる活動） ・諸調査結果を活かした授業の改善を図る。 ・妥当性、信頼性に基づいた学習評価を実施（評価ソフトの活用、説明責任）する。 ・課題解決に向けた補充学習を実施する。 ② 伝統文化教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化教育推進委員会を設置して推進を図る。 ・既存の取組の関連付けと整理を図る。 ・指定事業を実施する。 ③ 小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育推進体制の強化を図る。 ・9年間を見通したカリキュラムマネジメント（小学校の学習内容の理解と関連の検討） ・地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）を推進する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域との連携、協働） ・生徒自己評価（自学自習、アウトプット、エスノート） ・保護者アンケート（京都嵯峨学園に対する理解）

・学校運営協議会の評価 他

中間評価

各種指標結果

○京都嵯峨学園としての活動状況

- ・3小学校合同すもう大会、愛宕街道灯し合同展示、嵯峨中パレード校区巡回や環境標語幟交換式は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。
- ・「嵯峨中パレード」環境標語の幟は、取組発表および地域（JR嵯峨嵐山駅）に掲示した。

○小中合同の会議・研修、取組の状況

- ・これまでの小中合同研修（前期授業研修・夏季研修・後期授業研修）は全て中止。
- ・小中合同主任会は夏休みに実施。校長会・教頭会・教務主任会・事務ブロック会議は開催。

○ホームページのアクセス数

- ・一斉休校（臨時休校）時に学習や学校の状況等の配信を積極的に行ったこともあり、昨年度に比べて大幅にアクセス数を伸ばしている。休校明けからも積極的に、教育活動の状況をタイムリーに上げることでアクセス数を伸ばしている

○7月保護者アンケート（「そう思う」「ほぼそう思う」を集計）

- ・京都嵯峨学園の認知度…86.5%（昨年度に比べ5ポイント程度↑）
- ・教育活動についての情報提供ができている…82.1%
- ・小中の連携した教育活動が取り組めている…81.9%

○7月教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域との連携、協働）

- ・前項目で記載

○7月生徒アンケート（自学自習、アウトプット、エスノート）

- ・前項目で記載

自己評価

分析（成果と課題）

○京都嵯峨学園としての活動

嵯峨中パレードは校区巡回を中止したが、校内での取組発表を行い、SNSでの広く周知することを生徒たちが考えて企画を進めることができた。その際に地域の多数の方にご協力いただいた。

○小中合同教科、分掌・係別会議

今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴って実施することが出来なかつたために、ほとんどの取組は行っていない。

○ホームページ

校務分掌の中に、広報係として各学年に設置することで、学年の取組をタイムリーに更新することができた。記録係との連携の中で写真データをすぐに教頭機に送ってくれるので、情報発信がしやすい。

○京都嵯峨学園の認知度

京都嵯峨学園だより等の発行を通して、認知度が格段に上げってきた。今後も取り組みが保護者や地域にもきちんと伝えるようにしていく。

分析を踏まえた取組の改善

- ・12月には小中連携事業の一環として、中学校体験授業・部活動見学を予定している。新型コロナウイルス感染拡大の中、しっかりと感染症対策を講じて実施していく。次年度は昨年度と

	<p>同様に小中合同の会議・研修、取組の充実を図っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事はほとんど終了したが、学年ごとの日々の取組は継続しているので、広報係を中心にホームページ記事の作成をしてもらい、情報発信していきたい。 ・京都嵯峨学園の認知度を高めるため、小中学校の教頭が「京都嵯峨学園だより」を発行して情報提供を行うことになっているが、今年度は「嵯峨中パレード」(すでに発行済み)と「小中連携事業（中学校体験授業・部活動紹介）と入学説明会」を取り上げて発信していきたい。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・京都嵯峨学園としての活動状況 ・小中合同（小中連携）の会議・研修・取組の状況 ・12月教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域との連携、協働） ・12月生徒アンケート（自学自習、アウトプット、エスノート） ・12月保護者アンケート（京都嵯峨学園に対する理解） ・学校運営協議会の評価 他 	

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「嵯峨中パレード」の取組発表のダイジェストVTRを見ていただき、校内での発表であるが、生徒による御輿・和太鼓・ダンス等について、改めて素晴らしいと高い評価をいただいた。 また、PTA本部役員や保護者ボランティアにご協力いただいた。今後も強く存続を願われております、来年度に向けて、3学区の自治連合会・少年補導・交通安全推進会等の諸団体、PTA校外補導委員会とともに、スムーズに進行するために引き継ぎをしっかりとご指導いただいた。
-----------------------------	--

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>○京都嵯峨学園としての活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3小学校合同すもう大会（中止）、三菱自動車新入写真研修受け入れ（中止）、愛宕街道灯籠合同展示（中止）、嵯峨中パレード（取組発表会のみ実施）※小学校の幟製作と地域掲示のみ <p>○小中合同（小中連携）の会議・研修・取組の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長会、教務主任会、ブロック事務会議は定期的に実施できたが、夏季合同研修会を中止し、合同主任会のみ実施、合同研究授業や合同教科会、合同係会などは実施できなかった。 ・小中連絡会および小6中学校体験（学校紹介・体験授業・部活動見学のみ実施） <p>○教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域との連携、協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標やめあての提示など、わかりやすい授業となる工夫と取組を行っている…100% ・創意工夫のある授業、学びに向かう姿勢を高める授業を行っている…97.1% ・聞く姿勢を意識し、指導をしている…100% ・困難なことに妥協せず、高い目標を設定して挑戦するような指導を行っている…91.2% ・互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるよう指導している…91.2% ・「一生懸命はカッコいい」を目指す生徒の育成に向けて教育実践をしている…88.3% ・地域と共にある学校づくりを意識して、特色ある教育活動を行っている…85.3% <p>○生徒アンケート（自学自習、アウトプット、エスノート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで学習に取り組んでいる…82.6% ・家庭での学習を自主的に取り組めている…59.9% ・自分の考えを持って、しっかり話したり、書くことができている…79.4% ・エスノートを活用して、毎日を計画的に過ごせている…40.1%
--	--

	<p>○保護者アンケート（京都嵯峨学園に対する理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都嵯峨学園の名称について知っている… 81. 9% ・京都嵯峨学園の教育活動について、情報の発信や提供ができる… 81. 0% ・3小1中の連携した教育活動として取り組めている… 82. 2%
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○京都嵯峨学園としての活動状況、小中合同（小中連携）の会議・研修・取組の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ほとんどの取組は中止、出来ても規模を縮小した形での開催となった。「できることをできる形で」実施したが、従来通りに実施できた例年と比べると生徒たちの変容は少なく感じられた。次年度も引き続き感染防止に向けた取組をしながらの可否の判断や開催できたとしても形を変え、規模を縮小せざる得ない状況となることが予想される。 <p>○教職員自己評価より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組から落ち着いた学校で、様々な授業改善に取り組む中でわかる授業や学力向上に取り組んできたが、コロナ禍で優先順位は2カ月以上の休校分を取り戻すことが求められ、十分に生徒たちの学びを高められていないのではないかと思われる。 <p>○生徒アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の休校から元通りの学校生活のリズムに戻れなかったり、学習習慣も崩れてしまつた生徒に対して手立てを充分に打てていないと思われる。特に1年生は小学生から中学生になりきれていない様子が伺えた。自主学習（家庭学習）の習慣と意識付けが必要であると考えると同時にエスノート（振り返り手帳）の活用も今一度考えなおしていきたい。 <p>○保護者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都嵯峨学園として継続している取組が多く、校区3小学校、中学校で様々な行事で協力してもらっていることから、認知度は高い。さらに発信力を高めていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○小中合同の会議・研修、取組の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回の小中合同研究授業と夏季合同研修会を次年度も実施する。 ・月1回実施している4校校長会や小中連携主任会（教務主任会）だけでなく、各係の会議を活性化する。 <p>○学校での様子・学校行事や京都嵯峨学園の取組をホームページで紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに記録・広報係を校務分掌に位置付けて、タイムリーに掲載していくことで、広く活動を知ってもらうようにする。 <p>○G I G Aスクール構想事業と学力向上にシフトした授業改善を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく導入されたG I G Aスクール構想事業でのタブレット端末をうまく活用しつつ、基礎学力の定着と求められている資質・能力を高められるような授業改善に取り組み、生徒たちの学びにかえるようにしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の委員様からも「よく取り組んでいる」との評価をいただいた。 ・礼儀作法やあいさつ等については、本来は家庭で行うことであるが、学校でもしっかりと取り組んでいることに感謝をされた。

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標

新しい時代の教育に向けた、持続可能な学校指導体制の構築と教職員の意識改革

具体的な取組

① 勤務時間を意識した働き方の推進

- ・職員朝礼で、毎日、学校閉鎖時間を伝える。
- ・庶務事務システムを利用した勤務時間の把握及びデータ分析及び活用する。
- ・ノー残業デー（毎週水曜日）については、午後7時に退校する。
- ・ストレスチェックを実施する。
- ・学校医による面談を実施する。
- ・PTA、地域の方々、学生ボランティア等の活用を図る。
- ・スクールカウンセラー、総合育成支援員、学校司書、ALT等の連携を図る。
- ・留守番電話の設定をする。（京都嵯峨学園で統一し、午後7時～午前7時30分）
- ・学校閉鎖日についての理解と協力を得る。

② 「学校働き方改革宣言」の周知徹底

- ・保護者への啓発を行い、理解と協力を得る。
- ・学校運営協議会で説明し、ご意見をいただくとともに理解を得る。
- ・学校行事の精選と見直しをする。
- ・業務の分散化する。

③ 部活動の適切な実施

- ・部活動ガイドラインの徹底を図る。
- ・外部コーチ、部活動支援員、合同部活動、保護者引率の活用を図る。
- ・ノーブ活動日を実施する。

④ 振替等の適切な運用

- ・代休、割変の確実な取得を図る。

⑤ ハラスメントの防止

- ・教職員面談を実施する。
- ・風通しのよい職場づくりを推進する。

⑥ 育児、介護を伴う教職員への配慮

- ・特休等が取得しやすい職場環境をつくる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間
- ・教職員自己評価（意識改革、地域との連携、協働）
- ・保護者アンケート（働き方改革に関する理解）
- ・学校運営協議会の評価 他

中間評価

各種指標結果

○出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間について80時間を超えた教職員数

- ・4月…0人、5月…0人、6月…0人、7月…0人、8月…0人、9月…0人
- 10月…6人、11月…1人

○教職員自己評価（「そう思う」「ほぼそう思う」を集計）

- ・ライフワークバランスを意識した働き方改革ができている… 85. 7%

○保護者の意識、理解

- ・留守番電話の設定や夏季休業中の学校閉鎖日（年休取得促進日）等などで苦情もなく、理解が進んでいる。

○学校運営協議会の評価

- ・日頃の教職員の努力を評価しつつ、嵯峨中パレード等では PTA 本部役員や地域から数多くのボランティアでご協力いただいた。

○「働き方改革」推進のための取組

- ・部活動の朝練習の廃止

○新型コロナウイルス感染拡大に伴う消毒作業の負担軽減の取組

- ・全教職員で消毒を行うために、消毒開始時間を勤務時間内に入るように、部活動終了時間・完全下校時間を繰り上げた。

自己評価

分析（成果と課題）

通常、電話対応終了時刻を 19 時頃、退校時刻を 20 時に設定して新年度をスタートさせた。学年黒板には 19 時までに帰宅できるような働き方にするように、日頃の仕事のやり方を見直していくように呼びかけている。4月・5月は一斉休校（臨時休校）措置で、在宅勤務も 3交代で取れるようにしたので、超過勤務時間は大幅に縮減されたが、9月～10月にかけて、春に行っていた行事を振り替えたために、元々予定されていた行事と重なり、かなりのオーバーワークとなった。ノー残業デー（原則水曜日）については、19 時までの退校を呼びかけているが 10 月ごろからはほとんど実現できていないのが実情である。また、自分の勤務時間に出退勤管理システムで管理することで、ライフワークバランスを意識した生活を送ることができている。しかし、月間 80 時間を超える教職員もあり、さらなる意識改革も必要となっている。特に土日などの休日の部活動前後に多くの時間を職員室で勤務しており、やはり土日の部活動指導は休日の時間外勤務を誘発している現状である。（平日の縮減は進むが、逆に休日勤務は増加している。）

これまでの総合育成支援員、SC、学校司書、ALT、部活動の外部コーチに加えて、今年度は校務支援員・観察実験アシスタント・学生ボランティア等の協力を得ることで、教職員の負担軽減になっている。

教職員自己評価では、ライフワークバランスを意識した働き方改革ができているが 85. 7% とであり、良い数字が出ているが、この数字は 7 月時のアンケート結果であるので、12 月実施アンケートではどうなるかは心配である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・各自が勤務時間を意識し、ライフワークバランスを意識したセルフコントロールをするように働きかける。
- ・ノー残業デーだけでなく、それ以外の日でも積極的に早く帰校するように呼びかけ、日常的に早期退校をする雰囲気を作っていく。
- ・部活動指導（特に休日）と働き方改革の両輪を進める制度改革が必要。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間
- ・12 月教職員自己評価（意識改革、地域との連携、協働）
- ・保護者、地域の理解

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の評価 他
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>社会全体で、「働き方改革」が進んでいるので、学校現場でも積極的に進めていく必要があるとのご意見をいただいた。学校行事等をはじめ学校教育活動全般で、効果的かつ効率的な取組になるように、内容の精選や工夫が求められるとのご意見もいただいた。</p>

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間が80時間を超えた教職員数 <ul style="list-style-type: none"> ・12月…0人, 1月…0人, 2月…0人 ○教職員自己評価（意識改革） <ul style="list-style-type: none"> ・ライフワークバランスを意識した働き方になるよう、働き方改革に努めている…85.3% ○保護者、地域の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・留守番電話対応時間や長期休業中の学校閉鎖日など、特に苦情もなく協力的（肯定的）な意見をよく聞いている。 ○学校運営協議会の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の教職員の努力を評価しつつ、嵯峨中パレードなどではPTAや地域からたくさんのボランティアに参加いただいた。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午後7時に自宅に帰ることができる働き方になるようにと年度当初にお願いをしたが、日常的に午後8時を過ぎると帰路につく教職員が増えてきた。（例外は生徒指導・家庭訪問など） ・1ヶ月平均で80時間を超えるような残業をする教職員もほとんどいなくなった。 ・校務支援員が配置されたことで、印刷・丁合・配布・掲示など様々な作業を担当してもらえたことで煩雑な業務の負担軽減になっている ・総合育成支援員、SC、学校司書、ALT、部活動指導員や外部コーチ、学生ボランティア等の協力を得ることで、教職員の負担軽減になっている。 ・教職員自己評価でワークライフバランスを意識した働き方改革が昨年度の約70%から約15ポイント上がり、良い傾向がみられる。 ・年休の取得も増える傾向にあり、従来の休んではいけない雰囲気から、休んだ時にはお互いにフォローしあう雰囲気がでてきた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々がもっと自分の勤務時間を意識し、ワークライフバランスを意識したセルフコントロールを働きかけていきたい。 ・年度当初に働き方改革について研修を持ち、時間外勤務を45時間以内に収められるような働き方をしてもらうようとする。 ・職員健康日（休養や家庭での時間、自己啓発のための時間）を設定し、全員午後6時までに退勤することを推奨し、通常日は午後7時30分までに退勤として呼びかけていく。
学校 関 係 者	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事等をはじめ学校教育活動全般で効果的かつ効率的な取組になるよう工夫していく。 ・学校および教職員のモチベーションも含めて、持続可能なものにしていくためには、働き方改革の取り組みについて、抜本的にこれまでのあり方を変えていかなければならない。

評
価